



国内の外食産業8分野64業態を調査

注目市場

ステーキ・ハンバーグFRは11年が前年比15%増の1,783億円、12年見込は同7%増の1,905億円
 ・・・・11年は店舗数が急増、12年も多くのチェーンが好調を維持

時間帯別市場

標準型FRでは12年市場(売上)見込の5%、コーヒーショップでは24%がモーニングタイム
 ・・・・標準型FR、コーヒーショップともにモーニングメニューを強化

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811)は、2012年5月~9月にかけて国内14分野128業態の外食市場の調査、外食企業の事例研究、外食産業の都道府県別マーケットポテンシャルの分析などを行い、その結果を4回に亘り報告する。今回は2回目、ファミリーレストラン、喫茶、西洋料理、日本料理、東洋料理、エスニック料理、給食、宿泊宴会場の8分野64業態の外食市場について調査し、その結果を報告書「外食産業マーケティング便覧 2012 No.2」にまとめた。

今後、外食産業の企業研究、海外における外食産業の動向を「同 No.3」、外食産業のエリア別分析結果を「同 No.4」にまとめる。

< 調査結果の概要 >

分野	2011年	前年比	2012年見込	前年比
ファミリーレストラン	1兆3,602億円	98.4%	1兆3,694億円	100.7%
喫茶	1兆3,976億円	98.6%	1兆3,858億円	99.2%
西洋料理	7,328億円	98.1%	7,261億円	99.1%
日本料理	2兆7,134億円	97.2%	2兆6,667億円	98.3%
東洋料理	1兆2,728億円	96.7%	1兆2,884億円	101.2%
エスニック料理	1,094億円	98.4%	1,085億円	99.2%
給食	3兆6,684億円	100.4%	3兆6,544億円	99.6%
宿泊宴会場	3兆7,942億円	93.2%	3兆8,170億円	100.6%

ファミリーレストラン(FR)市場は2011年まで5年連続縮小していたが、2012年はイタリアFR、ステーキ・ハンバーグFR、ちゃんぽんFRで前年の好調が続くほか、高価格型FRや中華FR、バイキングレストランでも好調なチェーンがあり、プラスに転じると見られる。

喫茶市場は、セルフサービス店が2012年も上位チェーンの店舗数増加、また、フードメニューのテコ入れによる集客や客単価アップ策で前年比プラスとなるが、フルサービス店の苦戦が続いており、縮小が見込まれる。

西洋料理市場は、2011年は震災の発生による消費マインドの冷え込みにより集客が思うように進まず、オイスターバーなどの一部を除いて前年割れを喫する業態が多かったことから縮小した。2012年は各社の売上げ減少に下げ止まりが見られることから、引き続きマイナスが見込まれるものの縮小幅は緩和される。

日本料理市場は、すきやき・しゃぶしゃぶが上位2チェーンの新規出店の進展で2012年も好調を維持するが、その他の業態は依然として苦戦していることから、縮小すると見込まれる。

東洋料理市場は、韓国料理が韓流ブームの追い風によって2011年以降更に成長ペースを加速しており、震災による自粛、セシウム検出、食中毒事件などの影響で減少した焼肉料理や高級中華料理がその反動などにより伸びることから、拡大が見込まれる。

エスニック料理市場は、低単価なメニューでランチ需要などを掴む新興チェーンや個人店は増加しているが、上

位チェーンは苦境に立たされ不採算店を閉店させているため、微減が見込まれる。

給食市場は、高齢者福祉施設給食が有料老人ホームの増加によって伸びているが、工場、病院、大学などの減少により他の業態が苦戦していることから、マイナスが見込まれる。

宿泊宴会場市場は景気低迷で前年割れが続いており、2011年も震災により需要が落ち込み例年以上のマイナスとなった。しかし、2012年はその反動もあって僅かなプラスが見込まれる。

<注目市場>

1. ステーキ・ハンバーグFR

2011年	前年比	2012年見込	前年比
1,783億円	115.3%	1,905億円	106.8%

エムグラントフードサービス「けん」が導入したサラダバー食べ放題スタイルが消費者に受け入れられ、同様のスタイルをとるチェーンの新規参入が相次いだことで市場は2010年から急拡大し始めた。同年は3月にすかいらーく「ステーキガスト」、8月にフレンドリー「ハッピーコング」、そして12月にはロイヤルグループ「カウボーイ家族」が新規参入している。

2011年は「けん」をはじめ好調なチェーンが多く、特に「ステーキガスト」は主に業態転換により店舗数を2010年末の32店から157店まで増やしており、店舗数増加によって市場が押し上げられた。

大量出店を続けてきた「ステーキガスト」の伸びが落ち着いてきたが、その他競合チェーンが好調を続けており、2012年の市場は前年比6.8%増の1,905億円が見込まれる。

2. 高齢者福祉施設給食

	2011年	前年比	2012年見込	前年比
高齢者福祉施設給食	5,275億円	103.9%	5,470億円	103.7%
有料老人ホーム	1,244億円	113.8%	1,389億円	111.7%

有料老人ホームは高齢者福祉施設給食の内数

高齢者福祉施設給食は、厚生労働省が定める社会施設のうち老人福祉施設（養護老人ホーム、軽費老人ホーム、老人福祉センター）、有料老人ホーム、介護サービス施設の介護老人保健施設を対象としている。高齢化により施設数は増加しているが、2009年頃から老人福祉施設などの公的施設は減少に転じている。

2011年は特に有料老人ホームの施設数が大幅に増加したことで、市場は前年比3.9%増の5,275億円となった。2012年も引き続き有料老人ホームが増加しており、市場は前年比3.7%増の5,470億円が見込まれる。

有料老人ホームは、2006年の規制緩和（人数要件が廃止）を機に、登録件数が大幅に増えている。2011年も施設数の増加からLEOCをはじめとする給食業者が新規需要を獲得し実績を伸ばし、市場が拡大している。2012年も参入各社は堅調に新規受注を獲得していることから、市場は前年比11.7%増の1,389億円が見込まれる。

<主な業態の時間帯別市場構成>

1. 標準型FR市場の時間帯別構成（2012年見込）

モーニング	ランチ	アイドルタイム	ディナー
5.1%	36.8%	7.0%	51.1%

ここでは客単価が850円以上、1,100円未満のチェーンを対象としている。「ココス」「デニーズ」「ジョナサン」などが上位チェーンである。市場はマイナス推移が続いている。2011年は朝昼晩毎のメニューの充実によって拡大を図ったチェーンもあったが、震災の影響も多く見られ通年では微減となった。2012年も店舗改修を進め来客数の拡大を図っているチェーンもあるが、市場は微減が見込まれる。

2012年の市場は5,040億円が見込まれる。市場の51%を占めるのがディナーである。次いでランチが37%を占める。モーニングは5%であり、各社ともモーニングメニューの強化を図っている。

「ロイヤルホスト」はモーニングに家庭では味わうことのできないメニューを提供し、新たな朝の過ごし方を提案している。特に、定年にともない朝の過ごし方が変わってきた団塊世代をターゲットに、心や時間のゆとりを感じてもらえるメニューを企画している。

2. コーヒーショップ市場の時間帯別構成（2012年見込）

モーニング	ランチ	アイドルタイム	ディナー
23.6%	34.3%	29.3%	12.8%

ここではコーヒーがメインメニューとなるセルフサービス型の喫茶業態を対象としている。「スターバックスコーヒー」「ドトールコーヒーショップ」「タリーズコーヒー」などが上位チェーンである。市場は2009年こそ前年を下回ったが、近年は前年を上回る推移を続けている。2012年も引き続き新規出店や店舗改修による来客数の拡大が図られており、市場は前年を上回ると見られる。

2012年の市場は3,203億円が見込まれる。市場の34%を占めるのがランチで、次ぐのが29%を占めるアイドルタイム、24%を占めるモーニングである。ここ1～2年、殆どのチェーンがモーニングメニューの強化に乗り出しており、モーニングのウエイトが拡大している。

コーヒーショップは様々なメニューを取り揃えることでそれぞれの時間帯ごとに集客できるが、多くのチェーンでは軽食メニューが殆どであることからディナーの施策が今後の課題となっている。特に震災後はディナーの集客に影響が出ており、2012年も回復していない状況にあることから、モーニングで補っている。

<調査対象 8分野64業態>

ファミリーレストラン	標準型FR、高価格型FR、低価格型FR、和風FR、イタリアFR、中華FR、ステーキ・ハンバーグFR、チャンポンFR、パイキングレストラン
喫茶	コーヒーショップ、(低価格型コーヒーショップ)、(高価格型コーヒーショップ)、喫茶店・コーヒー専門店、紅茶専門店、フルーツパーラー、(ベーカーリーカフェ) 甘味処、ジューススタンド
西洋料理	フランス料理、イタリア料理、(高級イタリア料理)、(パスタレストラン)、アメリカ料理、ドイツ料理、スペイン料理、ステーキ・ハンバーグレストラン、シーフードレストラン、(オイスターバー)、オムレツ・オムライスレストラン
日本料理	そば・うどん、(そば居酒屋) すし、うなぎ、てんぷら、とんかつ、すき焼き・しゃぶしゃぶ、料亭・割烹、(豆腐料理)、(低価格ふく料理)、かに料理、ちゃんこ料理、もつ鍋、お好み焼き
東洋料理	韓国料理、焼肉料理、(ホルモン料理)、高級中華料理、一般中華料理、(点心料理)
エスニック料理	メキシコ料理、インド料理、東南アジア料理
給食	産業給食、学校給食、病院給食、高齢者福祉施設給食、(有料老人ホーム) 幼稚園・保育所給食、学生食堂
宿泊宴会場	ホテル、(ビジネスホテル)、結婚式場・宴会場、旅館、(民宿・ペンション)

<調査方法>

富士経済専門調査員による調査対象企業及び関連企業・団体等へのヒアリング及び関連文献、社内データベースを併用

<調査期間>

2012年6月～7月

以上

資料タイトル	「外食産業マーケティング便覧2012 No.2」
体裁	A4判 259頁
価格	書籍版90,000円 (税込み94,500円) PDF/データ版100,000円 (税込み105,000円) 書籍版+PDF/データ版セット110,000円 (税込み115,500円)
調査・編集	富士経済 東京マーケティング本部 第一統括部 第一部 TEL:03-3664-5821 FAX:03-3661-9514
発行所	株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル TEL:03-3664-5811 (代) FAX:03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL: http://www.group.fuji-keizai.co.jp/ https://www.fuji-keizai.co.jp/